

令和5年度 第1回西淀川区教育行政連絡会議事要旨

日 時：令和5年6月6日（火）13:30～14:30

場 所：オンライン（Teams）

出席者：（学校）柏里小学校、野里小学校、姫島小学校、福小学校、大和田小学校、川北小学校
佃小学校、香簀小学校、歌島小学校、出来島小学校、佃西小学校、御幣島小学校、
淀中学校、西淀中学校、歌島中学校
各校校長先生

（区役所）区長 中島、副区長 難波、こども福祉担当課長 横内、
こども福祉グループ課長代理 椿野、係長 向井、係員 播谷、加藤

○区長より開催の挨拶

- ・時代の変化におけるPTAの在り方や、ICTの活用などについてなど、こんなことに困っているということがあるが、又はうまくいっている事の紹介でも結構ですので、忌憚ない意見をお聞かせいただきたい。

○区役所担当よりにしよど万博SDG'Sタイムカプセル事業について資料に添って説明。

- ・にしよど万博SDG'Sタイムカプセル事業につきまして、2025年に大阪万博が開催されるが、区民の皆さん市民の皆さんにとって万博の認知度は高いが、まだまだ行きたいという方が少なく機運醸成が課題となっている。

西淀川区では万博の主な目的であるSDG'Sを捉え、区民の約1割の1万人にSDG'Sに触れて頂き、万博につなげる取り組み、西淀川万博を開催する。

小中学生を対象に、SDG'Sの勉強を行い、タイムカプセルによってSDG'Sに関する自分の思いを将来の自分に届けるという取り組みを行う。西淀川万博では他に、健康を考える場を設けたり、音楽祭を行ったりし、五感に訴求するような取り組みを大々的に秋にかけて実施していく予定である。

各小中学校ではSDG'Sの事について勉強されていると想定している。実際に、学校にお伺いした時には「水を出しっぱなしにしない」との掲示や、教員によるSDG'Sについての授業など既に学校で取り組まれているところを把握している。今回、西淀川区では資料のようなメッセージカードを作成する。各小中学校でSDG'Sを勉強していくなかで、児童生徒が私は何が出来るかという思いをメッセージカードに記入いただきたい。メッセージカードを区役所に預けていただいた児童生徒については、2030年のSDG'SのGOAL年、今の中学3年生が二十歳になる年から順に、二十歳の集いの際にメッセージカードをお返ししていこうと思う。メッセージカードの留意事項について、返却できずに最終的に残ったカードは処分させていただくなどあるが、現在調整中である。また、メッセージカードの扱いについて、自宅で保管するか区役所に預けてタイムカプセルに収納するかは自由である。

今後のスケジュールにつきましては、資料のとおり。なお、今年の11月30日に万博500日前イベントを予定していて、区役所に預ける分についてはそれまでに学校でまとめて頂きたい。

続いてJICA神戸について紹介する。JICA神戸の市民参加協力課では、学校に対する講師派遣などを行っているので、SDG'Sについて学校の授業で活用したい際は区役所までご連絡いただければ

ばお繋ぎする。JICA 神戸内では、「SDG' S って何？」などについて、学校の教室より 2 回りぐらい大きい広さで展示を行っていて、勉強することができる。例えば、入館して左側にパネルがあり、日本のパネルを選択すると日本が「SDG' S」の 17 つの項目で何が達成できているかなどを閲覧することができる。各学校で見学等をご検討いただきたい。

・タイムカプセルについての質疑応答

(佃小学校)

タイムカプセルの主旨は理解した。様式では名前などを一切書くところがないが大丈夫か。

(区役所)

学校名・学年・クラス・出席番号を記入いただき提出願いたい、引き換え券にも同様に記入いただき、家庭保管願いたい。

(佃小学校)

小学生なので、SDG' S についての考えだけではなく、今、自分が頑張っていることや大きくなったらこんな風になりたいなども書いても良いのか。

(区役所)

主な目的は SDG' S をしっかり勉強頂くことですが、その延長線上で、特に低学年であればそのような内容も問題ない。

○区役所担当より令和 5 年度学校関係事業のご紹介

・校長経営戦略予算 (次長枠)

- ① 基礎学力の支援事業：自己肯定感および基礎学力の向上をめざし、小学校では英検ジュニアや英検 E S G、中学校では漢字検定や文章検定を実施する
- ② スクールボランティア支援事業：学校における教育活動の支援にあたるボランティアに対し、1 日 2,700 円の報償金と交通費を支給する、学校を人的に支援する。どこの学校も、ボランティアが集まらないと言う事をお聞きする。夏休み頃にボランティア募集の記事を広報紙に掲載する。
- ③ に～よん個別復習塾：小学校 5・6 年生と中学生を対象に、区民会館、区民ホール、オンラインで実施。校区外のため通塾が難しい方のために、オンラインも用意している。塾代助成事業を取得している方にとっては、実質無料で受ける事ができる。

・こどもサポートネット事業など

令和 5 年度から、スクールソーシャルワーカー (SSW) 2 名が配置となっている。いじめ対応等では SSET で SSW を活用していただいている。こどもサポートネットでは昨年度、190 名ほどを対象に支援を行ってきた。

○区役所担当より「外国につながる子どもの教育」について資料に添って説明

- ・西淀川区には、外国につながる子ども達が沢山いる。第 1 共生支援拠点(らんまん)が淀中学校にある。近くにあるので、西淀川区の学校にご利用頂きたいと思っている。活用の状況については、令和 3 年からの入国制限の緩和に伴い、初期対応・プレクラスとも利用人数が増えてきてい

る。しかし、JSLの小学校5年生からの学習支援を行う支援員の派遣が減少傾向。日本語教室がある学校でも学習言語の理解の為に積極的に利用していただきたい。

- ・にしよど☆グッドスタート

西淀川区内の保育園・幼稚園に通う就学前の外国につながるこどもが対象。対象園児を小学校に円滑に繋げるための事業。以前も就学時前健診から漏れてしまっていたこどもが何人かいた。入学申請書も出していなかったというこどもが何人かいて、そのような方を学校に繋げるのが目的である。

- ・にしよどグッドスタート for ハイスクール

中等教育を終えた外国につながるこどもを対象とし、西淀川区の中学校を卒業した後、就学も就労も行わずにいたが高校への進学意欲のあるケースや、中等教育を外国で終えてから日本に来たこども達で、中学校に通うことはできないが高校には行きたいというこどもたちの為に学習支援を区役所で週に1回行っている。小学校教育、中学校教育で漏れてしまっているこども達も、日本では高校に通わないと、なかなか就職にも結び付きにくく、教育支援を行っている。

- ・たぶんか高校進学セミナー

令和5年度は7月30日に実施予定。中学校の校長会に、西淀川インターナショナルコミュニティの方に来て頂き、チラシを配り説明させて頂く予定。学校に在籍する外国につながるこどもや先生方にご紹介いただきたい。

- ・令和3年度に大阪大学の榎井教授に来ていただき、多文化に係る研修を行った。その際の研修資料が非常にわかりやすく、西淀川区の教員研修であれば利用頂いて良いとおっしゃっていただいている。

13歳以上で日本に来たこどもについてはしっかりと母国語で考えることができるので、日本語さえマスターすれば勉強はできるようになる。0歳から5歳の時に日本に来たこどもや、日本で生まれたこどもは、家庭内では母語をしゃべり、友達や学校では日本語をしゃべるという環境で学習がどんどん遅れていく傾向がある。本人たちも自分の努力が足りない、と思いながら大人になっていくこともある。教員の方々から見て、こどもの状態に問題は無いが、学習が遅れているこどもについて、勉強の努力不足と思われるが、実はJSLをはじめとした日本語学習が不足しているだけで補完することができれば、学習も追いついてくる可能性がある。

OPTAについて意見交換

(区役所)

佃小学校・歌島小学校が、PTAから保護者会に組織を変更。学校のPTAの状況や問題点についての意見の交換をお願いしたい

(出来島小学校)

当校もPTAの成り手が無く、今週やっと役員等が決まった。実は、PTAの存続自体が不可能ではないかという所まできている。校内のPTA活動はできるが区PTAや市PTAの活動への派遣が苦しく、行ける人だけに負担が集中するという声がある。外国籍のこども達の保護者も沢山おられ、どうしてもコミュニケーションが上手く取れず、役員の仕事の負担が偏ってしまうことも議論になった。学校としては、ベルマーク活動や広報の新聞、プール開放・図書館開放の

受付など、学校としては有難たい活動だが、PTA が負担であるのであれば活動を縮小するのも良いと話した。入学式・卒業式・運動会などでの、来賓の方への接待はすべて学校で行う事とした。運動会での警備も大変負担との事で、他の学校では警備員を採用している所もあると提案を行った。ベルマーク活動・広報の新聞は年1回とし、入学式・卒業式等の行事についても予定に入れず、大変スリム化した。区PTA や市PTA の人員の派遣については課題として残っている。

(福小学校)

当校もPTAの会長が決まるのは遅かった。全校児童が約110人で、その中で、PTAの役員・会長を決めるのが難航した。児童数が少なければ少ない程大変になる。来年度の役員・会長を決めるのも課題。

(区役所)

区PTA・市PTAも各校から同じ人数が選出されるので、小規模校程大変かと思う。

(出来島小学校)

実行委員の方から、夜の会議を無くして欲しいと意見がある。参加する人も一部の人に固定されている。懇談会や参観日など行事の日など、学校に集まった日の昼間に開催する、毎月の定例を無くし必要時のみ集まるという事に今年度からした。

(香簗小学校)

実行委員の方が積極的でいろいろな事を提案いただくが、保護者間で温度感に差があるようであり、教員が間に入ることがある。実行委員の新旧の集まりに40~50人集まれる状況。会費も殆どの方が納めて頂いている。そのほか、特に問題になっている事はない。

(福小学校長)

同じ小規模校でも当校の状態は異なっている。当校は実行委員会も多くの方がお勤めされているので夜の7時から開催し、2か月に1度くらいで1時間以内に終わるようにしている。集まる人数は、15人~20人。

(佃小学校)

保護者会の利点として、会費が減った、全員の役割分担が無くなった、役員決めが無くなった、定例のPTA行事・社会見学・研修会などが無くなった事があり、負担軽減に繋がっている。

悪い点は、有志の方5~6人で保護者会を行っていて、その方々の負担が大きいという事、来年度誰が行うのかとなると、決める時点できっと揉める点が挙げられる。なり手は少ないのが現状。会費は安くなったが、保護者会なら払わなくても良いのではという意見もある。会費はこども達の為に還元していくが、その点が上手く共有できていないのかと思う。

(歌島小学校)

昨年の2学期くらいから、保護者会への移行の話があった。現在進行形で変化している部分もある。年度替わりに、上手く引き継ぎ、スタートできたらと進めたが、意見を集約して行く中で、なかなかまとまらず次年度の人の配置体制が、2月~3月ぐらいになってようやく決まった。保護者会はPTA会長にあたる立場の方はおらず、代表という扱いで3名、会長及び副会長2名を決めている。前任が後任の方を選定できればと思うが、実際の決め方は抽選という形になっている。決め方はプリントで周知し賛成いただいても、実際に決まると出来ないと言われる方もいる。保護者会への変更は負担軽減の為に進めてきたが、活動をゼロにすること

はできない。例えば、保護者会への移行に伴い保護者で行っていた当番制を一旦休止にしている。実際のところ、当番を決めていても、お見えにならない方もいらっしゃる。しかし、こどもの安全に関わる活動は何とか続けて行かないといけないと、今年度窓口として動いてくださっている方は、必要最小限の活動をなんとか行っていこうと考えてくださっている。

予算についても、PTA として大々的に行わないのであれば、会費の見直しということも出てくる。学校の方で年間行事的に、PTA の予算で対応いただいた部分も見直していく必要がある。

必要最小限の活動にできるかどうか、人の引き継ぎをどうするか、予算をどうするのかという課題がある。年に1回、毎年やってきた、こども達とお母さん・お父さんなどお家の方とのふれあいの行事もなんとか続けたいと思うが、それを実施すると前のPTA みたいなことになるという悩みがある。

学校としてはメリットもデメリットもどちらもまだ感じられておらず、継続して取り組んでいる状態である。PTA に頼っていた部分があったが、保護者会への移行により昨年度から行事等で保護者の方にご協力頂くというのは、極力控えている。学校協議会についてもPTA 卒の推薦が難しく、切り替えが難航している。地域の方から、保護者会への移行に否定的な意見も聞こえてくる。

(区役所)

こどもの安全確保という部分については出来島小から事例をあげていただいた、警備員を雇うというのも方法の一つかと思う。なんとか学校が立ちいく方法を模索する必要があるのかと思う。実行委員会で盛り上がっているというお話があったが、保護者の方々がこのような事をしたいと言うような提案事はあるか

(川北小学校)

提案事ではないが、PTA の状況についてお伝えする。本校のPTA はほぼ毎週木曜日に集まり活発に活動している。昨年については、登下校の通学路の課題があり危機感を持ち関心を持たれていた。区役所からも実際に来て頂き、PTA の方とも話をして、通学路に標語を設置する準備を進めている。区役所とPTA が一緒になって進めていて、大変プラス面となっている。見守り隊の方の高齢化が進んでいて、PTA にも役割分担をして頂きたいと感じているがそこまで進んでいない。今年度については見守りの旗を全家庭分用意し、皆でこども達を見守りしていくようにしたい。

今、PTA の方が苦慮しているのはコロナ以前の行事をどこまで戻すのか、また以前のノウハウが立ち消えていてどの様にして良いか分からないと言うところ。

(香簾小学校)

当校のPTA 活動の課題については、ゲストティーチャーとして、良い人材を紹介頂けるとお話を頂いても、継続的に招くための計画や属人的になりがちな点など学校で調整が必要となるケースがある。また広報活動について、行事の際に前列で写真を撮る事ができる点がモチベーションとなり、進んで行っていただいているが、新聞の作成等の行事以外の他の活動を行わないという方もいて、揉め事について教員が間に入らなければならない場面もあった。

(歌島中学校)

当校も、PTA 活動はそんなに活発ではない。なるべく省ける点は省き、委員の方の数も削減し活動している。保護者数が多くとも、役員は簡単に決まらないので抽選をし、会長について

も持ち廻りで行う事になっているが、実際はその通りとなっていないのが現状。そのような中で、なるべく活動を減少しつつ活動を続けている。

PTA から保護者会に移行することについて、音頭は誰がとったのか。どの様に話を進めたのか。

(歌島小学校)

保護者会への移行については、前年度の役員の方々でこのままであれば、委員・役員のなり手が無いと言う事で話をされることから始まった。佃小学校で保護者会に移行されたというお話を聞かれ、その様にしたいとの事で話合われていた。学校としては意向を聞いていたが、主に保護者間の協議に委ね、学校はこれまでの取組を見直すなどの今後の方向性をお伝えし、経過を見守っていたところである。音頭取りについては、厳密にいうのは難しいが、役員の主だった方々が今後どのように活動していくかを話し合われ、行事などについて必要な仕事・ unnecessaryな仕事をリストアップし取捨選択されて、文書を作成された。意見集約の時、役員間でも意見が分かれて意思統一ができない場面もあったが、最終的には縮小と言うことに決まった。また、コロナ禍での協議だった為、対面での協議が難しく、意思疎通に苦労されていた。

もちろん1人で決める事は出来ないし、いろいろな意見を纏められる方が必要であるし、決まった後も地域や区PTA などの方にお話しできる方が必要であるので、エネルギーが必要な作業だと思う。

以上